

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ

<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

淡路ふくろうの郷の見学者が増えつつあり、11月は500名を超えています。内訳では全国各地からの手話や聴覚障害者運動に関わる仲間たち、近畿圏内の民生児童委員さんたち、各地の社協や介護相談員さんたち、他の施設や法人等々が多いです。特徴は、施設ができて1年目、2年目と同じく4000人の数の人たちが見学や交流、学習に連れられ、リピーターも目立ちます。4000部を普及した5周年記念誌効果もあるのでしょうか。入居者の人生や、施設内外での実践地域との関わり等、ふくろうの郷からの学びを期待する人たちに伝えられる施設でありたいと、身の引き締まる思いです。

恒例！秋のいもほり



▲コンテナから溢れそうになるほど収穫できました(10月5日)

雨空一転秋晴れに 1,000 人超の参加

中川原ふれあいセンターも同時開催 10/28



▲来賓のみなさん右から洲本市健康福祉部長清水様・中川原連合町内会会長藤井様
洲本市議会議長山本様・衆議院議員西村様・施設長・入所者自治会会長北風様

10月28日、ふれあいセンターも第二会場として同時開催の「第7回ふれ愛まつり」は、一〇〇〇人を超える参加者のあついで、未明からの雨を秋空に変え、「生まれた町ふるさと(保育園)」「だんじり歌・岸壁の母(小学校)」など、中川原の子供たちの元気な歌声がひびきわたりました。

そして、特別企画・入所者による「ふくろうコレクション(フアッシュヨシヨ)」、厚浜の「百歳音頭」に初参加の大野民謡教室、フィナーレの「阿波踊り」まで、元気の競演が続きました。



▲洲本市竹内市長様・森屋副市長様も防災訓練の中を駆けつけてくださいました



▲子どもたちに大人気ミニSL

快晴の秋空の下、今年も中川原保育所の園児と一緒に「いもほり」を行いました。

ふくろうの畑で入居者、職員共に育てていましたが、今年は雨も少なく、大きいイモは少ないかと思いき、心配していましたが、掘り出してみると大きき、量、共に立派に育ってくれており、たくさんのおサツマイモを収穫することができました。

(生活援助員：船越)



▲秋らしい和装をまとった土居さん



▲紅葉を模した冠を半田さん



▲長田さん(手前)と今回のファッションショーを企画して下さった志方さん(後)



入居者参加によるファッションショー ふくろうコレクション



▲黒崎さんと酒井さん



▲左から谷さん夫婦、勝楽さん夫婦、花房さん夫婦



▲ブーケを手に笑顔の谷妙子さん



▲かわいらしくきました中川原保育所「そう組」の舞台発表

参加者の皆さんから「結婚式がよかった」「みんなきれいだっ」「来年もぜひ」と、励まして下さいました。これからも多くの笑顔を見られるように、より良いふれ愛まつりを目指していきたいと思っています。

昼ごろには雨雲も去り、ふれ愛まつりにふさわしい秋空となりました。各団体、歌に手話歌、民謡、阿波踊りなど、素晴らしい舞台発表の中、淡路ふくろうの郷からは入居者、職員と中川原小学校の生徒さんたちによるファッションショー。

入居者夫婦と職員夫婦が舞台へ並んだウェディング・ショーも盛り上がりましました。



▲ふくろうの郷職員裏山夫婦と昌さん

今回のふくろうふれ愛まつりでは今年7月に開所した中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターも一緒に数多くのお客様をお迎えしました。

中川原地域との協働事業ということでこの日のために地域の方々によるバザー品や野菜の販売、手作り作品の販売、中川原保育所・小学校、地域の方々の作品展示、そしてふれあいセンターの写真を展示し多くの方々に関心を持っていただきました。

これからもこのふれあいセンターが旧中川原中学校時代同様、地域の皆様方に愛され、心のよりどころとなるよう、地域の方々と手をとりあうべく頑張りたいと思います。

(担当:濱田)

ふれ愛まつりに楽しみが増えました

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター



▲おのころの家が販売したスープセットは完売



▲フリーマーケットの様子



入居者の作品を展示



「お茶」を体験できるスペースも

文化展



▲B級グルメ1位 垂水区聴障協会とサークルのみなさん

模擬店



▲午後から雨もあがり模擬店は大賑わい



▲「ゆめるん」



▲淡路市の「あわ神」



▲南あわじ市から「いぶし瓦の銀さん」

ゆるキャラ

11月1日～3日、広島で行われた「全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会・利用者交流会」に入居者7名職員3名が参加しました。船中での交流会・施設見学に加え、安芸の宮島と千光寺公園を観光しました。紅葉には少し早く残念でしたが、初めて訪れた場所とすることができ、楽しむことができました。

来年行われる京都での交流会にも元気に参加して頂きたいと思っています。

(生活援助員:加野)



七施設交流会IN広島

特にイルカショーでは司会のお姉さんに合わせて踊ったり、イルカが飛んだり芸をするたびに感嘆されておられたのが印象的でした。

今回は少し速出だったこともあり、月川ユニット入居者全員では行けませんでした。次回は全員での企画を入居者さんと進めたいです。(生活援助員:原口)

水族館ではイルカショーやラッコのえさやり、ペンギンのお散歩、大水槽などいろいろなものを見ることができました。

去る10月11日に月川ユニットのレクリエーションで須磨海浜水族園に行きました。出発前には雨が降っていました。水族館に到着する頃には雨も上がっており、行楽日和となりました。



秋の行楽ユニット外出 須磨海浜水族園

おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX 0799-26-0956

一日千個の箱折りに挑戦☆



線香の箱折り

「仲間の声掛けで通所開始」

魚住小夜子さん(58)。淡路島の小中学校を出たあと、神戸ろう学校高等部で和裁を専攻されました。その後、ろう者の旦那さんと結婚。ろうあ協会会員ではありませんでしたが、行事に時々参加する程度で、義兄ご夫妻の漁師のお仕事をずっとお手伝いされてきました。7年前、ご主人が淡路ぶく

ろうの郷に入所されたのをきっかけに、おのころの家の通所を始められました。ですが、ご主人が亡くなられた後は、通所がお休みがちになりました。そんな時、「家に引きこもっていてもダメよ」「おのころの家は楽しいよ」と、仲間の声かけがありました。

最初は週2回だった通所ですが、今年の5月から3日になりました。(4日の週もあります)

おのころの家の委託作業の一つに、「線香の箱折り」があります。小夜子さんは、今年の4月から挑戦です。仲間や職員の援助をうけながら、ひとつひとつ丁寧に箱を折り上げていけます。最初は上手く出来ず、数もあまり折れませんでした。が、コツをつかまれると軽快に一日千個以上の箱を折れるようになりました。

昼食後の食器洗いも率先しています。

「美術作品展へ」

小夜子さんは編物も得意です。網目記号も読むことができます。先日も本を見ながら手袋を一日で編み上げられ、秋



編目記号を見ながら、手袋作り

の淡路文化会館美術作品展に出展することになりました。

小夜子さんの箱折りは、仲間と自然と競争になります。箱折りのプロ的存在の仲間から「残りはよろしく」と任されることもあります。「任される」「頼りにされる」こと、これが小夜子さんの自信につながり、いろんな面で積極的になれる、通所日数も増えたのだと思います。朝も笑顔で挨拶してくださいませ。「家についてもつまらないですよ。おのころの家に来て仕事をするのはとても楽しい」と小夜子さんはおっしゃいます。

「高まり合う」

考え方も人生経験も、コミユニケーション手段も様々な方の集まりですから、仲よ

おのころ屋



〒656-0025
洲本市本町7丁目3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX 0799-22-6133

「カフェ・おのころ」



ふくろう祭りに出店しました。場所は旧中川原中学校内、桜ヶ丘です。

みんなで前日からケーキやクリームシチューの準備をして、当日は早朝6時集合でパンを焼き始めました。そして、桜ヶ丘に移動。10時には開店し、あとはお客様を

待つだけ。しかし、外は雨…。お客様ゼロの時間。そこで、メイン会場であるふくろうの郷に連絡し、PRの放送をしていただきました。ポスターを持ち、直接、来場者にお願ひもしました。その甲斐あり、昼には沢山の方がご来店くださいました。雨も上がり、青空も見えてきました。

カフェに参加した利用者さんは普段、製造業務が中心で、お客様に接することが少ないため、今回の機会はとても貴重でした。「とても楽しかった」「勉強になった」と感想を話されていました。たくさんの方の笑顔に出会うことができ、終わってみればとても充実した一日でした。ご来店くださった皆様、本当にありがとうございました。



ケーキは完売しましたよ

合い、そんな居場所である「おのころ」をめざします。



▲「ろう者に通じる手話を身に着けたい」と・・・平松講師の話聞き逃すまいと真剣な表情の受講者



▲医療現場のロールプレイをみんなで体験。「医療用語は難しく私も通訳できなくて困った経験がたくさんあった。ろう者が理解できなくても、通訳者だけが問題を抱えこまない。医師にも加わってもらい工夫してもらおうなど、医療現場をみんなで一緒に作っていくことが大事」と平井講師からアドバイス。

手話通訳者の人材育成・確保を目的とした「ブラッシュアップ講座」が9月から11月までの6回コースで開催されています。手話通訳者全国統一試験対策、また登録通訳者の者の研修

学びの秋に
通訳者の心で猛勉強
ブラッシュアップ講座

淡路聴覚障害者センター
 洲本市港2-26
 洲本市健康福祉館3階

の一環としても位置付けており、36名もの申込がありました。2グループに分かれて、それぞれ平井裕子講師、平松弘子講師に指導していただいています。「手話を学ぶことの自分の目標は何か」等宿題も出るなど厳しさの中にも楽しく学んでいます。「ろう者が困難な中で生きてきた悔しさや誇りなどのメッセージを読みとれているか。自分の価値観で判断していないか、ろう者が生きてきた背景を知ることが大事」等、気づかされることも多いとの受講者の感想もあり修了後の成長が楽しみです。

それぞれが主人公になれる場 ミニ交流会イン南あわじ市(10/8)

第2回ミニ交流会が開かれ、ろう協、難聴者、サークル計36名の参加者がロビーを埋め尽くし、生い立ちや仕事、ろう学校の思い出、戦争体験など語り、それぞれが主人公になれる場でもありました。



▲「休暇村南淡路」にて

第7回ふくろうふれ愛まつり ボランティアで大活躍



手話をたくさん覚え、ろうの人と手話が通じて嬉しかった。ろう者への配慮の仕方も学びました。



生き生きと生活されている笑顔が印象に残りました。手話を通じた想いを伝えられる環境で生活できると素晴らしいと思いました。



関西リハビリ専門学校で言語聴覚士目指し勉強中。今日は友人5人を誘って来ました。

ふくろうの郷では言語聴覚士が活躍していると知りました。私も将来こんな施設で聴覚士の資格を生かして頑張りたい。

手話が飛び交うし、また地域にもオープンな施設ですごいなと思いました。

とても楽しかった。人のお役に立てることをするって気持ちいいです。



▲手話奉仕員養成講座受講者(淡路会場)のみなさん

お知らせ

11月27日(火) 10:00~17:00
~こころのケア相談~

“1人で悩まずに話にきてみませんか?”

11月28日(水) 10:30~17:00
移動相談：南あわじ市西淡地区
午前：西淡公民館 午後：家庭訪問

12月2日(日) 9:30~15:00
社会生活教室：防災訓練
場所：洲本市総合福祉会館(やまて会館)

お問い合わせはセンターまで

TEL:0799-24-3850
FAX:0799-26-1175

続・地域を語る

第47回

郷土の生活の唄 二題

▽春駒(はりごま)

エダ目度も楽しこや

歳の始に此方様へは春駒が参りました、

四海の浪も静かに国々が治まる

時津嵐

門に門松、内に神の仏、メ縄引かせ

エダ目度も喜しこや

歳の始に此方様へは春駒が参りた

京の糸屋に娘が一人、此春頼

みが入り

たげな籠哥七種 長持八種

金襴緞子の帯八筋

立長かもちに金千両

示程拵えやるからにや戻ってくる

なよ

出てくなよ、アノマア、ととさんか

かさ言わんす事か

西が曇れば雨となり、東が曇れば

雪となる

雪は白ても水となる

先の男の気も知らず

十七、八の娘さんが酌に出る、

恥かしや

肴々と望まれて着に何を致せうよ

うもなし

裏な泉水についたるものは
鮒二つ、鯉二つ、鰻二つ
磯をさせるは鴨の鳥
ヤア、コレさまのお祝

※正月元旦、小さい木製の馬の頭に
鈴をつけ鳴らし、節ものどかに二人掛
合ひ又は同吟にて三味線や胡弓の鳴物
入りで各家々を祝儀に回ったときの唄
：今は知る人もなし。

▽えぢやないか…

正月元旦飾りえぢやないか

三笠に重ね餅 海老添え

薺 七草ゴトコトやゴトコト世界の

評判えぢやないか えぢやないか

揮子鯛 伊加利獅子えぢやないか

福良の雪洞 田中の衣裳

中島行列よく出来た世界の評判え

ぢやないか、ないか

おのころ橋馬えぢやないか

片足上げたら腰ぎぬけた

世界の評判えぢやないか、ないか…

※明治四年十月から翌年二月頃ま
で手に手に紅白の采を振り、町内の安
坂でも「おのころ神社」へ参拝の予定で
あったが庄屋さんの死去で中止となっ
た。
その時のうたというが今ぢや知る人
もなし。

※中川原村史より引用

日本財団に助成申請 兵庫県下の聴覚障害者実態調査の実施

公社団法人
兵聴協

兵庫県聴覚障害者協会は、
神戸市内をはじめ県下で聴覚
障害者等の新しい事業を展開
するにあたり、調査を基にした
事業の必要性等を明らかにす
る目的で日本財団に助成金を
申請しました。

《調査の目的》

① ろうあ者・聴覚障害者の「手
をつなぐ力」が弱められ、最も
困難な仲間たちが、輪の中から
切り離され、加われない実態が
ないか。

② 施設・事業がただの箱になっ
ていないか。民主主義・発達・自
立・連帯の拠点になっているか。
利用者が施設事業を利用しつ
つ、職員などの援助を得て、共
にろうあ運動など社会活動へ
参加しているか。

③ 新たに自立・発達・連帯の拠
点としての施設や事業を作り
出すこと。孤立化させられてい
る仲間の生活の実態(相談の困
難事例・子供たち)や暮しの実
態としての貧困の洗い出し、障

害による差別禁止法等を背景
に暮しの実態としての差別・虐
待の掘り起こしです。

《来年4月から実施予定》
福祉法人も参加した、実態
調査検討会では、研究者の協
力も得て、調査項目の精査や
調査の手法等について具体化を
図っています。

調査は、兵庫県下を六つのブ
ロックと聴覚障害の子どもたち
と家族、困難事例の分析など
八つの調査グループを編成し、
二〇一三年四月から実施の予
定です。

冬の訪れ～平岡農園でみかん狩り～



11月3日平岡農園までみかん狩りに行ってきました。

年末年始ボランティアのお願い

- クリスマスバイキング
12月25日(水) 10:00～14:00
 - おせち料理もりつけ
1月1日(元旦) 9:00～
 - 初詣
1月2・3・4日 13:00～15:30
- 担当：竹原まで



看護師・介護職 募集中!

調理員(パート)も募集しています

◆給与・労働条件等、詳細は下記までお問い合わせください。

○お問合せ：淡路ふくろうの郷(八木)まで
電話 0799-25-8550